

自然環境の課題

景観と植生の変化

既存部

1933（昭和 8）年の開園当時は、シラカシなどの常緑樹の並木、クヌギやコナラなどの雑木を主体とした武蔵野の雰囲気を残した公園であったとされます。

1963（昭和 38）年の写真と 2009（平成 21）年の写真を比較すると、池の南西部のボート乗り場や池の北東部の原っぱの整備のために一部の樹木がなくなっているものの、その他の樹木は概ね維持されているように見えます。また、1 本 1 本の樹冠のサイズに注目すると、それぞれが大きくなっており、大経木化が進んでいることが分かります。

2023（令和 5）年の写真を見ると、池の西側から北西側にかけて、2022（令和 4）年～2023（令和 5）年の立ち枯れの影響で一部の樹木がなくなっていることが分かります。

拡張部

2001（平成 13）年に碑文谷公園の一部となった際、新たに自由広場、芝生広場が整備されました。その後、それぞれの広場で丈の低い草地在維持されています。

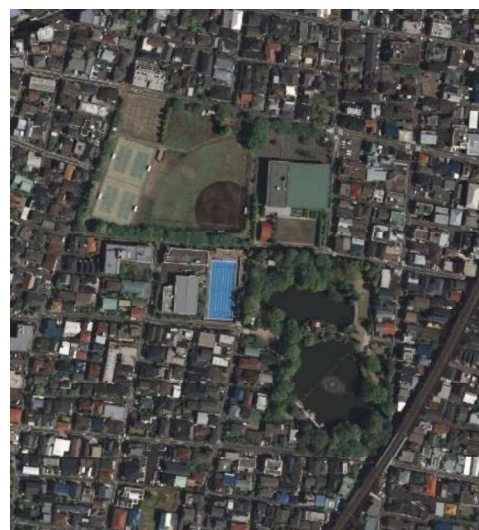
資料：1963（昭和 38）年と 2009（平成 21）年は、地図・空中写真閲覧サービス（国土地理院）をもとに作成

2023（令和 5）年は、目黒区みどりの実態調査（2023（令和 5）年度）をもとに作成

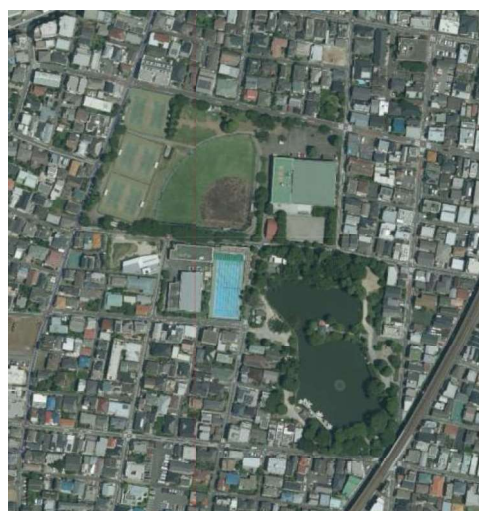
景観と植生の変化⇒



1963（昭和 38）年（夏）



2009（平成 21）年（夏）



2023（令和 5）年（夏）

環境別の課題

樹林地

2022（令和4）年に池の西側のクヌギ、北西側のケヤキ、2023（令和5）年に池の西側のクヌギ（前年度とは別の樹木）、北西側のエノキが立て続けに立ち枯れました。樹木の大経木化に対して生育するスペースが十分ではないことが考えられ、複数の樹木が衰弱し始めている可能性があります。

また、碑文谷公園では、2016（平成28）年ごろに、防犯の観点から公園内の見通しをよくするため、目線の高さの樹木の多くが伐採された経緯があります。そのため、現在の樹林地には、様々な樹種・階層の樹木がなく単調になっており、そこに生息する動物の多様性も低いと考えられます。



立ち枯れたクヌギ



階層構造がなく単調な樹林

原っぱ

碑文谷公園の原っぱでは、年に2～4回の頻度で一様に草刈りが行われているため、丈の低い草地が一面に広がり単調になっており、そこに生息する動物の多様性も低いと考えられます。



丈の低い単調な草地

池

既存部の池では、全周にわたって垂直な護岸が整備されており、水生植物や水辺を利用する動物の多様性も低いと考えられます。



池の垂直な護岸

外来種による影響

樹林地ではトウネズミモチ^{*1}、原っぱ（既存部の池東側広場）ではワルナスビ、池ではアカミミガメ^{*2}やブルーギル^{*2}などの外来種が定着しており、本来公園に生息・生育していた在来の動植物に影響を及ぼしていると考えられます。



池に生息するアカミミガメ

^{*1}：環境省が「生態系被害防止外来種」に指定している ^{*2}：環境省が「特定外来生物」に指定している

エリア図と将来像

自由広場



- ・子どもや大人が活動する草地は、裸地ができないように適度な利用管理が行われている。
- ・生物多様性保全ゾーンは、バッタやキリギリスなどが暮らすチガヤ草地となっている。

ケヤキ広場

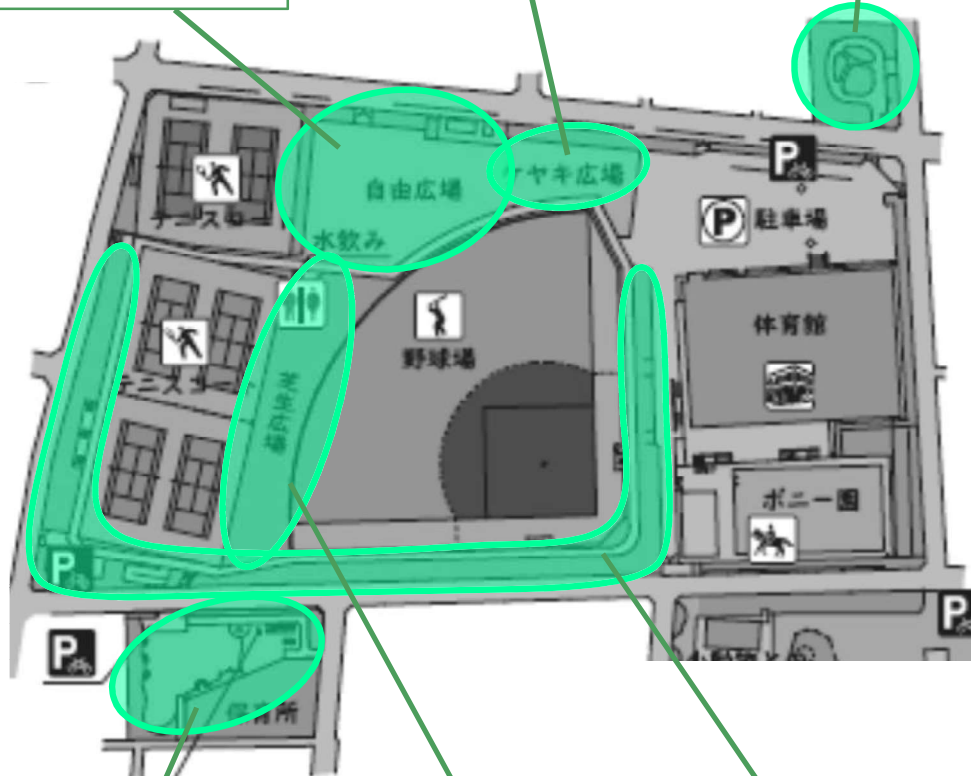


- ・高木が木陰をつくり、周囲にはバッタやキリギリスが暮らす草地、蝶が訪れる花が咲く低木が保全されている。

花の公園



- ・散策路には、人が楽しみ、蝶や野鳥が訪れる四季折々の草木が保全され、中高木が木陰をつくっている。



憩いと交流の広場



- ・人が楽しみ、蝶や野鳥が訪れる四季折々の草木が保全されている。
- ・築山と原っぱの子どもたちが活動する草地は、裸地ができないように適度な利用管理が行われている。

芝生広場



- ・スポーツを観戦しながらくつろげる草地は、裸地ができないように適度な利用管理が行われている。
- ・生物多様性保全ゾーンは、バッタやキリギリスなどが暮らすチガヤ草地になっている。

並木の下散策路



- ・桜並木が春に満開の花を咲かせ、夏に木陰をつくっている。
- ・バッタやキリギリスが暮らす草地や、蝶が訪れる花が咲く低木が所々に保全されている。

エリア図と将来像（拡張部）

弁天池



- ・生物多様性保全ゾーンは、トンボなどが訪れる水辺の草地になっている。
- ・小魚やカモがゆったり泳ぎ、水中にはブルーギル等の外来種が減り、モツゴやテナガエビなどの在来種が増えている。
- ・池の周囲は、桜が再生され、水面に映える桜の景観が復活している。
- ・池の中の小島には、厳島神社と一帯となるみどりが保全されている。

ロケット広場周辺

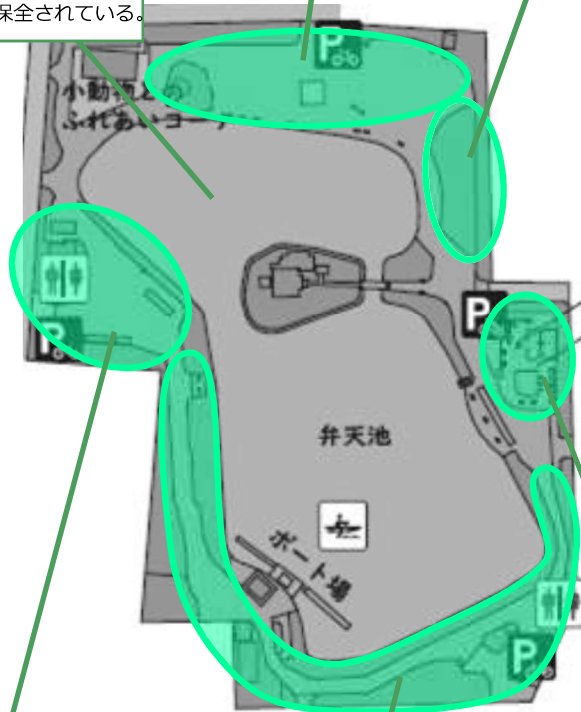


- ・高木が木陰をつくり、憩いと交流の場になっている。
- ・次世代の樹木が育ち、野鳥や昆虫が暮らしやすい階層構造ができている。

原っぱ (池東側の原っぱ)



- ・桜が春に満開の花を咲かせ、夏に木陰をつくっている。
- ・子どもたちが活動する草地は、裸地ができないように適度な利用管理が行われている。
- ・周囲は、バッタやキリギリスが暮らす草地となっている。



花の広場



- ・広場の南側（野草苑）には桜や野草が織りなす新しい景観が創出されている。
- ・花壇は、人が楽しみ、蝶が訪れる四季の草花に彩られている。

並木の下での散策路



- ・中高木の木陰で人々が散策している。
- ・生物多様性保全ゾーンでは、次世代の樹木が育ち、野鳥や昆虫が暮らしやすい階層構造ができている。

遊具広場



- ・子どもたちが楽しく安全に遊べる遊具が維持されている。

エリア図と将来像（既存部）